

入試セ企第44号
令和3年7月26日

国立大学協会会長
公立大学協会会長
日本私立大学連盟会長
日本私立大学協会会長
全国公立短期大学協会会長
日本私立短期大学協会会長
殿

独立行政法人大学入試センター理事長

山本 廣 基
(公印省略)

平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入学共通テスト
における出題科目『情報Ⅰ』の経過措置について(照会)

平素より、大学入学共通テストの実施をはじめ、当センターの業務に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和3年3月24日付入試セ企第152号で通知した「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目について」において新たな出題科目として示した『情報Ⅰ』(注)については、現行の大学入学共通テストにおいて対応する出題科目が存在しておらず、旧教育課程(平成21年告示高等学校学習指導要領)履修者が令和7年度大学入学共通テストを受験して希望する大学に出願する上では、不利益を受けることがないよう対応を行う必要があります。

ついでには、別添に示す対応案(A案及びB案の2案)についての貴団体の御意見を、令和3年8月20日(金)までに書面にて当センター宛てに御提出いただくようお願いいたします。御意見は任意の様式に御記載ください。また、別添に示す対応案(A案及びB案の2案)についての御意見に加え、他の対応案を御提案いただける場合は、併せて御記載の上お知らせください。

なお、提出いただいた御意見は、貴団体名を記載した形で取りまとめた上で文部科学省に提出します。その後、大学入学者選抜協議会に報告され、更なる検討が行われた上で、文部科学省において『情報Ⅰ』の経過措置の要否について決定され、令和7年度大学入学共通テスト実施大綱の予告(補遺)として通知される予定です。

(注) 令和3年3月24日付入試セ企第152号においては、出題科目名を『情報』としていましたが、現在の調整状況を踏まえ、『情報Ⅰ』としています。

- 別添 大学入学共通テストの出題科目『情報Ⅰ』の経過措置について【取扱嚴重注意】
- 参考1 『情報Ⅰ』の経過措置に係る検討スケジュール（予定）【取扱嚴重注意】
- 参考2 高等学校学習指導要領における「情報Ⅰ」,「社会と情報」,「情報の科学」の対応関係について
- 参考3 『情報Ⅰ』に関するこれまでの提言等
- 参考4 サンプル問題『情報』（令和3年3月公表）
(https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html)

問合せ先
独立行政法人大学入試センター
試験企画部試験企画課
電話：03-5478-1367
03-5478-1366

大学入学共通テストの出題科目『情報Ⅰ』の経過措置について

『情報Ⅰ』については、現行の大学入学共通テストにおいては対応する出題科目が存在しない。このため、旧教育課程（平成 21 年告示高等学校学習指導要領）履修者が、令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストを受験して希望する大学に出願する上で不利益を受けることがないよう、何らかの対応を行う必要がある。

新教育課程（平成 30 年告示高等学校学習指導要領）履修者も含めた受験者にとっての公平性、大学入学者選抜としての妥当性等に照らし、以下のいずれの案が適切と考えるか、御意見を伺いたい。

A 案 旧教育課程の教科「情報」（「社会と情報」及び「情報の科学」*）の内容に対応した経過措置問題を作成し、令和 7 年度大学入学共通テストの出題科目『情報Ⅰ』を課す大学を志望する旧教育課程履修者に受験させる。

*平成 21 年告示高等学校学習指導要領において、共通教科「情報」については、「社会と情報」又は「情報の科学」のいずれかを選択履修させることとされている。

B 案 旧教育課程の教科「情報」の内容に対応した経過措置問題を作成せず、令和 7 年度大学入学共通テストの出題科目『情報Ⅰ』を課す大学において、旧教育課程履修者が不利とならないよう配慮する。

（説明）

【A 案とする場合】

- ・旧教育課程履修者にとっては、高校 3 年時には受験する必要がなかった科目を、過年度生として大学入学共通テストを受験する際には新たに受験しなければならない。

（最後の旧教育課程履修者となる現在の高校 1 年生には、現在既に「社会と情報」又は「情報の科学」を履修している者も多い。）

- ・旧教育課程履修者の約 8 割は「社会と情報」、約 2 割は「情報の科学」を履修しているが、これらは、新教育課程履修者が履修する「情報Ⅰ」と目標や内容が大きく異なる*ため、『情報Ⅰ』と経過措置問題とでは試験問題の内容が異なってくる。

（例えば、「社会と情報」には「情報Ⅰ」で扱うプログラミングやデータ活用などは含まれない。）

※参考 2 参照

【B 案とする場合】

- ・旧教育課程履修者が不利益とならないよう、令和 7 年度大学入学共通テストにおいて『情報Ⅰ』を課す各大学において、予め『情報Ⅰ』の取扱いを明らかにすることが必要となる。

『情報Ⅰ』の経過措置に係る検討スケジュール（予定）

7月26日（月）	大学入試センターから各団体へ意見照会
8月20日（金）	各団体から大学入試センターに意見提出（締切）
8月下旬以降	大学入学者選抜協議会（2回開催）
9月中旬	文部科学省から「令和7年度大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）」を通知

（9月中旬に予告（補遺）を公表するスケジュールとする理由）

高等学校学習指導要領の改訂に伴い共通テストの出題教科・科目が大きく変更されることから、各大学において、いわゆる2年前予告を速やかに行えるよう、7月中に令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の予告をすることになっている。

特に『情報Ⅰ』を出題することになった場合、共通1次試験、センター試験を含め教科の新設は初めてのことであり、共通テスト『情報Ⅰ』の活用方法について具体的な学内検討を行うためには、その経過措置の有無についても確定情報が必要であり、大綱の予告から出来るだけ近いタイミングで経過措置等の予告の補遺を周知する必要があるため。

高等学校学習指導要領における「情報Ⅰ」、「社会と情報」、「情報の科学」の対応関係について

参考 2

情報Ⅰ（新学習指導要領）	社会と情報（現行学習指導要領）	情報の科学（現行学習指導要領）
<p>(1) 情報社会の問題解決</p> <p>(ア) 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法</p> <p>(イ) 情報に関する法制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラル</p> <p>(ウ) 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響</p> <p>※この科目の導入として位置付け、(2)から(4)までの関連に配慮するものとする。(ウ)及び(ウ)については、生徒が情報社会の問題を主体的に発見し明確化し、解決策を考える活動を取り入れるものとする。</p>	<p>(3) 情報社会の課題と情報モラル</p> <p>ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題</p> <p>イ セキュリティの確保</p> <p>ウ 情報社会における法の責任</p> <p>※ 望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。イについては、情報セキュリティを確保するために技術的対策と組織的対策とを適切に組み合わせることの重要性についても扱うこと。</p> <p>(4) 望ましい情報社会の構築</p> <p>ア 社会における情報システム</p> <p>イ 情報システムと人間</p> <p>ウ 情報社会における問題の解決</p> <p>※ 望ましい情報社会を構築する上での人間の役割について生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。イについては、生徒に情報システムの改善策などを提案させるなど、様々な意見を提案し集約する活動を取り入れること。</p>	<p>(4) 情報技術の進展と情報モラル</p> <p>ア 社会の情報化と人間</p> <p>イ 情報社会の安全と情報技術</p> <p>ウ 情報社会の発展と情報技術</p> <p>※ 生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動を取り入れること。アについては、情報機器や情報通信ネットワークの様々な機能を簡単に操作できるようにする工夫などについても扱うこと。</p> <p>ウについては、情報通信ネットワークなどを使用した犯罪などについて取り上げ、情報セキュリティなどに関する情報技術の適切な活用方法についても扱うこと。</p> <p>ウについては、情報技術を適切に活用するための個人の責任や態度について取り上げ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えを身に付けさせること。</p>
<p>(2) コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>(ア) メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴、その変遷</p> <p>(イ) 情報デザインが人や社会に果たしている役割</p> <p>(ウ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法</p> <p>※身近で具体的な情報デザインの例を基に、コンピュータなどを簡単に操作できるようにする工夫、年齢や障壁の有無、言語などに関係なく全ての人がとって利用しやすくなる工夫などを取り上げられるものとする。</p>	<p>(1) 情報の活用と表現</p> <p>ア 情報とメディアの特徴</p> <p>イ 情報のデジタル化</p> <p>ウ 情報の表現と伝達</p> <p>※情報の信頼性、信頼性及び著作権などに配慮したコンテンツの作成を通して扱うこと。</p> <p>イについては、基本化や量子化を取り上げ、コンピュータの内部では情報がデジタル化されていることについて扱うこと。ウについては、実習を中心に扱い、生徒同士で相互評価させる活動を取り入れること。</p> <p>(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション</p> <p>ア コミュニケーション手段の発達</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み</p> <p>ウ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション</p> <p>※電子メールやウェブサイトをとり上げ、これらの信頼性、利便性についても扱うこと。</p> <p>ウについては、実習を中心に扱い、情報の信頼性や著作権などへの配慮についての自己評価させる活動を取り入れること。</p>	<p>(1) コンピュータと情報通信ネットワーク</p> <p>ア コンピュータと情報の処理</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み</p> <p>ウ 情報システムの働きと提供するサービス</p> <p>※基本化や量子化などについて扱うこと。</p> <p>イについては、情報のやり取りの取組を用いて説明するなどして、情報通信ネットワークやプロトコルの仕組みを理解させることを重視すること。ウについては、情報システムが提供するサービスが生活に与えている変化について扱うこと。</p> <p>(2) 問題解決とコンピュータの活用</p> <p>ア 問題解決の基本的な考え方</p> <p>イ 問題の解決と処理手順の自動化</p> <p>ウ モデル化とシミュレーション</p> <p>※生徒に複数の解決策を考えさせ、目的と状況に応じて解決策を選択させる活動を取り入れること。</p> <p>イ及びウについては、学校や生徒の実態に応じて、適切なアプリケーションソフトウェアやプログラム言語を選択すること。</p>
<p>(3) コンピュータとプログラミング</p> <p>(ア) コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界</p> <p>(イ) アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法</p> <p>(ウ) 社会や自然などにおける現象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法</p> <p>※関数の定義・使用によりプログラムの構造を整理することともに、性能を改善する工夫の必要性についても扱われるものとする。</p> <p>(ウ)については、コンピュータを使う場合と使わない場合の双方を体験させるとともに、モデルの違いによって結果の違いが出るものについても扱われるものとする。</p>		<p>(1) コンピュータと情報通信ネットワーク【再掲】</p> <p>ア コンピュータと情報の処理</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み</p> <p>ウ 情報システムの働きと提供するサービス</p> <p>※基本化や量子化などについて扱うこと。</p> <p>イについては、情報のやり取りの取組を用いて説明するなどして、情報通信ネットワークやプロトコルの仕組みを理解させることを重視すること。ウについては、情報システムが提供するサービスが生活に与えている変化について扱うこと。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決</p> <p>ア 情報通信ネットワークと問題解決</p> <p>イ 情報の蓄積・管理とデータベース</p> <p>ウ 問題解決の評価と改善</p> <p>※実験に処理又は創出した情報について生徒に評価させる活動を取り入れること。アについては、学校や生徒の実態に応じて、適切なアプリケーションソフトウェアや情報通信ネットワークを選択すること。イについては、簡単なデータベースを作成する活動を取り入れ、情報が喪失した際のリスクについて扱うこと。</p>
<p>(4) 情報通信ネットワークとデータの活用</p> <p>(ア) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術</p> <p>(イ) データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴</p> <p>(ウ) データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法</p> <p>※小規模なネットワークを設計する活動を取り入れるものとする。</p> <p>(ウ)については、自らの情報活用の手順・改善について発表し討議するなど活動を取り入れるものとする。</p> <p>ウについては、比較、関連、変化、分類などの目的に即じた分析方法があることも扱うものとする。</p>		<p>(1) コンピュータと情報通信ネットワーク【再掲】</p> <p>ア コンピュータと情報の処理</p> <p>イ 情報通信ネットワークの仕組み</p> <p>ウ 情報システムの働きと提供するサービス</p> <p>※基本化や量子化などについて扱うこと。</p> <p>イについては、情報のやり取りの取組を用いて説明するなどして、情報通信ネットワークやプロトコルの仕組みを理解させることを重視すること。ウについては、情報システムが提供するサービスが生活に与えている変化について扱うこと。</p> <p>(3) 情報の管理と問題解決</p> <p>ア 情報通信ネットワークと問題解決</p> <p>イ 情報の蓄積・管理とデータベース</p> <p>ウ 問題解決の評価と改善</p> <p>※実験に処理又は創出した情報について生徒に評価させる活動を取り入れること。アについては、学校や生徒の実態に応じて、適切なアプリケーションソフトウェアや情報通信ネットワークを選択すること。イについては、簡単なデータベースを作成する活動を取り入れ、情報が喪失した際のリスクについて扱うこと。</p>

・「情報Ⅰ」と「社会と情報」および「情報の科学」の内容の対応関係については、文部科学省公表の「学習指導要領比較対照表【情報】」に基づく。

・「情報Ⅰ」の各項目は、「2. 内容」のうち「知識・技能」に係る部分に基づき記載。

・各項目の※印以下は、「指導計画および内容の取扱い」より、当該項目に係る記載を抜粋。

『情報 I』に関するこれまでの提言等

1 高大接続システム改革会議「最終報告」(平成 28 年 3 月 31 日)

III 高大接続システム改革の実現のための具体的方策

3. 大学入学者選抜改革

(3) 「大学入学希望者学力評価テスト (仮称)」の導入・
(略)

①対象とする教科・科目等 (次期学習指導要領下における基本的枠組み (平成 36 年度～))

次期学習指導要領における教科「情報」に関する中央教育審議会の検討と連動しながら、適切な出題科目を設定し、情報と情報技術を問題の発見と解決に活用する諸能力を評価する。

2 Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会「Society 5.0 に向けた人材育成～ 社会が変わる、学びが変わる～」(平成 30 年 6 月 5 日)

第 3 章 新たな時代に向けた学びの変革、取り組むべき施策 (Society 5.0 に向けたリーディング・プロジェクト)

(2) 基礎的読解力、数学的思考力などの基盤的な学力や情報活用能力をすべての児童生徒が習得

②情報活用能力の習得

大学入学共通テスト (2024 年～) で「情報」を出題科目に追加することについて検討を開始する。また、小中高を通じてデータ・サイエンスや統計教育を充実する。

3 未来投資戦略 2018—「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—(平成 30 年 6 月 15 日閣議決定)

第 1 基本的視座と重点施策

4. 経済構造革新への基盤づくり

(1) データ駆動型社会の共通インフラの整備

②AI 時代に対応した人材育成と最適活用

(略)

・義務教育終了段階での高い理数能力を、文系・理系を問わず、大学入学以降も伸ばしていけるよう、大学入学共通テストにおいて、国語、数学、英語のような基礎的な科目として必履修科目「情報 I」(コンピュータの仕組み、プログラミング等)を追加するとともに、文系も含めて全ての大学生が一般教養として数理・データサイエンスを履修できるよう、標準的なカリキュラムや教材の作成・普及を進める。

(略)

第 2 具体的施策

II. 経済構造革新への基盤づくり

[1] データ駆動型社会の共通インフラの整備

2. AI時代に対応した人材育成と最適活用

2-1. AI時代に求められる人材の育成・活用

(3) 新たに講ずべき具体的施策

i) 大学等におけるAI人材供給の拡大

・大学入学共通テストにおいて、平成36年度から必履修科目「情報I」などの新学習指導要領に対応した出題科目とすることについて本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示すとともに、コンピュータ上で実施する試験（CBT）などの試験の実施方法等について検討を進める。

4 AI戦略2019(令和元年6月11日統合イノベーション戦略推進会議決定)

II. 未来への基盤作り：教育改革と研究開発体制の再構築

II-1. 教育改革

<具体目標と取組>

(1) リテラシー教育

【大学入試・就職】

・大学入学共通テスト「情報I」を2024年度より出題することについてCBT活用を含めた検討（2019年度）【文】

・文系・理系等の学部分野等を問わず、「情報I」を入試に採用する大学の抜本的拡大とそのための環境整備（2024年度）【文】

5 成長戦略フォローアップ（令和3年6月18日閣議決定）

4. 「人」への投資の強化

(7) ギガスクール構想の推進による個別最適な学びや協働的な学びの充実

ii) 大学等におけるSociety5.0時代に向けた人材育成

(中略)

・Society5.0時代に必要な学力を評価するため、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことなどを重視する大学入学共通テストを着実に実施していく。また、当該テストにおいて「情報」を2024年度から出題することについて検討を行い、2021年度中に結論を得るとともに、将来的なCBT活用の在り方について検討を進める。